経営の知識　資金繰り・キャッシュフロー改善　その2（4回連載）

会社の現金がなくなる一番の原因は、ズバリ、カネの使い過ぎ

山岸税務会計事務所
財務コンサルタント　岩井勇介
（更北支部会員）

1979年、長野県生まれ。大学卒業後、地方銀行に勤務し、上場企業・中小企業等の融資業務を担当。2018年4月に「山岸税務会計事務所」へ入所。財務コンサルタントとして事業計画策定、資金繰り改善、資金調達の支援をおこなっている。

ロクシキ経営（株）
代表取締役　中邨康弘
（更北支部会員）

1982年、長野県生まれ。工学修士。経営学修士。大学卒業後、大手重工メーカーにて、ロケット、ジェットエンジンの開発に従事。経営大学院などを経た後、現職。長野の経営者の参謀役。一社一社に合わせた経営の全体最適のプロフェッショナル。

会員の皆さんこんにちは、財務コンサルタントの岩井です。前回に続き、資金繰り･キャッシュフロー改善についてお伝えしていきます。今回は、中邨さんから前回指摘のあった、「単純なカネの使い過ぎ」という話題ですね。

そうですね。前回お伝えしたことの繰り返しになりますが、実は、売上（収入）が足りない会社はあまり見たことがありません。単に、収入に対して、身の丈以上の贅沢な支出をして現金が足りなくっています。

要は、現状に見合わない無駄遣いってことですよね。典型的な無駄遣いのパターンというのはあるんでしょうか？

パターン化できれば楽なのですが、私の経験上、無駄遣いのパターンはなく、経費科目全般に渡って無駄遣いをしています。ある意味、これがパターンですね。（笑）

なるほど。（笑）ということは、つぶさにひとつずつ確認していく作業が必要ですね。「全般的に無駄遣い」と言われると、手掛かりがなさすぎるので、具体的な着眼点をできるだけたくさん挙げてもらえませんか？

わかりました。箇条書きになってしまいますが、私が経験してきた次の14の事項について、シビアに見直し作業をしてみてください。

①過大な役員報酬（身の丈以上に取り過ぎ）
②費用対効果を確認していない広告宣伝費
③会計事務所への過大報酬（相見積りが必要）
④銀行口座が多すぎる（2～3口座で充分）
⑤未活用の各種団体やコミュニティの会費
⑥売上や仕事につながらない接待交際費
⑦不必要なスマホやタブレット端末
⑧コンサルタントや経営塾の契約がいくつもある
⑨不必要に高いクルマや不要な車両がある
⑩設備や車両のリース契約（トータルコスト増大）
⑪過大な保険加入（セカンドオピニオンが大事）
⑫経営改善に繋がらない新聞や雑誌の定期購読
⑬支払利息が高過ぎる（銀行を競争させていない）
⑭経営者家族の私的な支出を容認している

②の広告宣伝費について少し説明が欲しいのですが。

マーケティングの知識が少ないと、どの広告宣伝手法が有効か判別できないので、垂れ流しになる可能性があり大変危険です。紙媒体や看板広告、TVなどのオールドメディアは費用対効果の計測が曖昧になりがちで、特に注意が必要です。

④はどういう意味ですか？

銀行口座が多いと、ネットバンキングの利用手数料がかさみますし、記帳の管理の手間や金融機関との見えないコミュニケーションコストも生じます。また、入金と送金の口座は手数料の安いところに集約しておかないと、振込手数料がかさみます。

それにしても、こうしたことは社長もある程度はわかっているはずなのに、どうして身の丈以上に使ってしまうんでしょうね…。

経営ノウハウやテクニックの問題もありますが、経営者の心の問題も大きいと思っています。ある人は見栄や付き合いで。ある人は生活水準を下げられない。ある人は負債が大き過ぎて正常な金銭感覚を失っている。などなど…。

一方で、本当におカネのある経営者は、普段からきちんと質素倹約をしているように感じます。経営者のみなさまには、見栄を張るとか、現状に合わない支出をしないよう、日頃から注意して欲しいものですね。